

**在宅医療推進に向けた研究及び
普及啓発活動に関する文献整理事業
報告書(短縮版)**

東京大学 高齢社会総合研究機構

村山 洋史

目次

理事長挨拶

1. はじめに -----	2
2. 2000 年度～2008 年度の助成研究の傾向分析 -----	3
3. まとめ -----	9

資料:分類表

理事長挨拶

2000年7月1日に財団が設立されて以来、満10年となり、在宅医療に従事する方々に助成事業を行なって参りました。

設立当初の助成金が約2,000万円から（株）オートバックスセブンの配当金の増配、基本財産の増額などにより、現在では約1億2,000万円までになりました。

2010年9月末現在に於いて、助成金累計額は5億500万円となりました。

この度、財団設立10周年を記念して9年間の助成金を通じて得た研究資料を東京大学高齢社会総合研究機構の村山洋史氏に文献整理をお願いし、編纂することになりました。

この事業によって過去9年間の在宅医療推進事業をご理解して頂けるかと思えます。

私は在宅医療を推進することにより国民の健康・公衆衛生に寄与し、今後の高齢社会の日本の在宅医療普及の一端となり、それが地域社会に貢献できると信じております。本年3月1日に内閣府より公益財団法人として認可を受け、新たな気持ちで在宅医療推進に取り組んでおります。

在宅医療に従事されている方々にとって助成金が在宅医療推進の潤滑油としての役割を演じて参りたいと存じます。

今後ともご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

2010年10月

理事長 住野 勇

1. はじめに

日本における在宅医療のニーズは、今後ますます増加することが予想される。その理由としていくつか挙げることができるが、一つには急速な高齢化の進行であろう。日本での要介護・要支援高齢者は、2007年現在約431万人であり、その7割が在宅で介護等を受けて生活している。今後ますます高齢化する現状を鑑みると、その数はさらに増えることが予想される。また、医療技術の進歩も在宅医療へのニーズ増加の一因であろう。これまでは病院や施設での管理が必要だった疾患に対しても在宅で療養が送ることができる方法や機器が開発されている。さらに、訪問看護・訪問介護ステーションの増加等、在宅に関する医療体制の充実も挙げられる。このような在宅医療へのニーズの高まりに応えるためには、在宅医療に関する研究や実践報告の蓄積が必要であり、これによりエビデンスに基づいた在宅医療が可能になる。

本研究では、在宅医療・在宅ケアに関する研究・取り組みへの助成を行っている公益財団法人勇美記念財団の助成研究に注目し、2000年度～2008年度までの過去9年間の助成研究について、個別の概要の作成、分類表の作成、および助成を受けている研究の傾向を探ることによって、今後求められる在宅医療・在宅ケアの研究や取り組みについての考察することを目的とした。

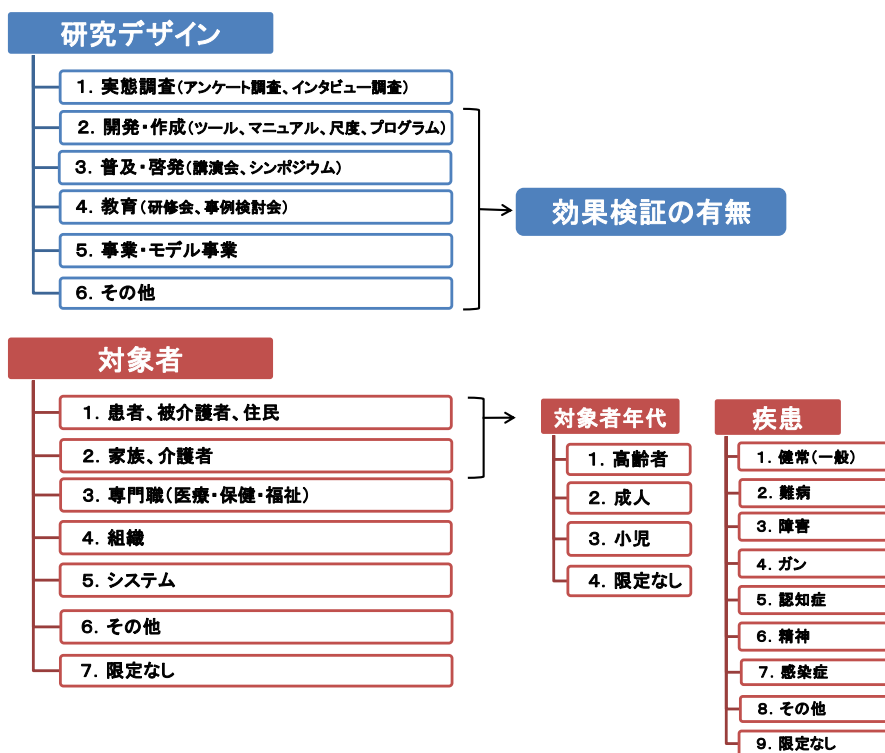
なお、本報告書は、この中でも「分類表の作成」および「傾向分析」について報告した短縮版である。助成研究個別の概要については、フルバージョンの報告書を参考にされたい。

2. 2000 年度～2008 年度の助成研究の分類、および傾向分析

勇美記念財団が 2000 年度から 2008 年度までに助成を行った研究・事業は、312 件であった。そのうち、「シンポジウムや研修会」、「シンポジウム等開催に伴うアンケート調査」、「勇美記念財団のホームページにて報告書の提出の確認されていないもの」を除く 232 件について、その内容を精読し、それぞれどのような内容について取り上げた研究であるかが概観できるよう、分類表を作成した。分類軸は、「研究デザイン」、「効果検証の有無」、「分野（在宅医療／在宅ケア、ターミナル／緩和ケア）」、「対象者」、「対象者年代」、「疾患」であった。研究デザインのうち、『実態調査』を除く、『開発・作成』、『普及・啓発』、『教育』、『事業・モデル事業』、『その他』については、効果検証の有無を調べた。また、対象者のうち、『患者、被介護者、住民』、『家族、介護者』については、「対象者の年代」、「疾患」を調べた（下図参照）。表中には、それぞれの分類についての下図の番号を示している。タイトル横に付してある番号は、勇美記念財団ホームページの「助成実績:完了報告書一覧」にある番号である。

※ 助成実績:完了報告書一覧 <http://www.zaitakuiryo-yuumizaidan.com/main/report.php>

さらに、全体の傾向を把握するために、分類軸毎に集計を行った。なお、1 つの助成の中で、複数の研究を行っているものも散見された。そのため、分類表では複数記載を行った。一方で、傾向分析では、複数の研究をそれぞれ 1 つの研究とみなして集計を行った（1 つの助成の中で、3 つの研究を行っている場合には、傾向分析では 3 件として扱っている）。そのため、傾向分析では延 322 件について取り扱った。



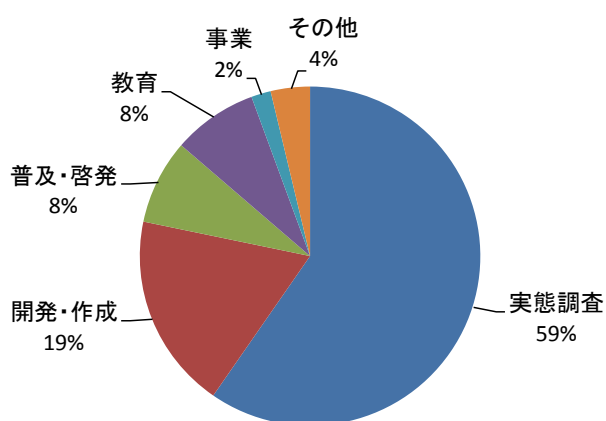
A. 分類表

本報告書の最後に、資料として掲載した。

B. 傾向分析

1) 研究デザイン

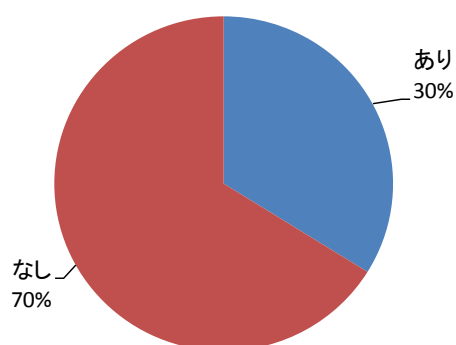
研究デザインを概観したところ、実態調査が全体の約 6 割を占め、ついでプログラムや尺度等の開発・作成が 2 割を占めた。



	度数	%
実態調査	192	59.6
開発・作成	60	18.6
普及・啓発	26	8.1
教育	26	8.1
事業	6	1.9
その他	12	3.7
計	322	100.0

2) 効果検証の有無

上記の『実態調査』を除く 130 本について効果検証の有無について調べたところ、効果検証を行っている研究は約 3 割強であった。

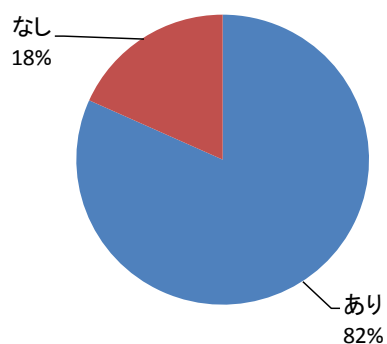


	度数	%
あり	44	30.1
なし	86	69.9
計	130	100.0

3) 分野

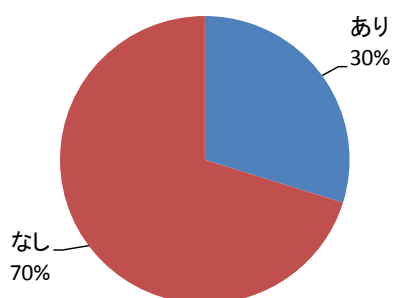
在宅医療／在宅ケアについての研究を行っているものは、約 8 割であった。また、ターミナル／緩和ケアについての研究は、約 3 割であった。

在宅医療／在宅ケア



	度数	%
あり	263	81.7
なし	59	18.3
計	322	100.0

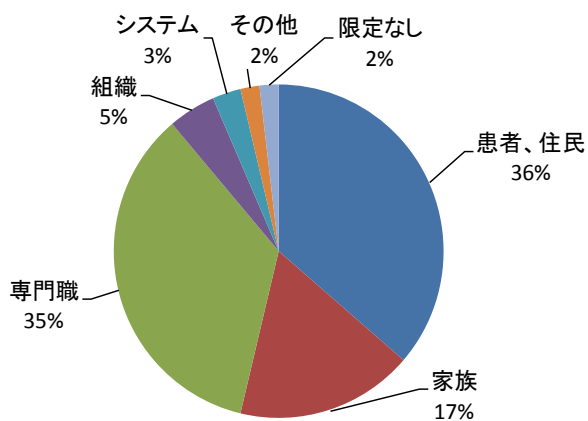
ターミナル／緩和ケア



	度数	%
あり	96	29.8
なし	226	70.2
計	322	100.0

4) 研究対象者

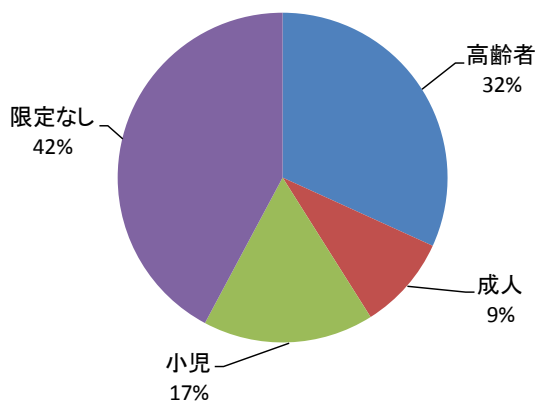
全体として、患者・被介護者・住民、および専門職を対象にした研究が約 4 割、家族を対象にしたものは約 2 割であった。



	度数	%
患者、住民	117	36.3
家族	56	17.4
専門職	113	35.1
組織	15	4.7
システム	9	2.8
その他	6	1.9
限定なし	6	1.9
計	322	100.0

5) 研究対象者の年代

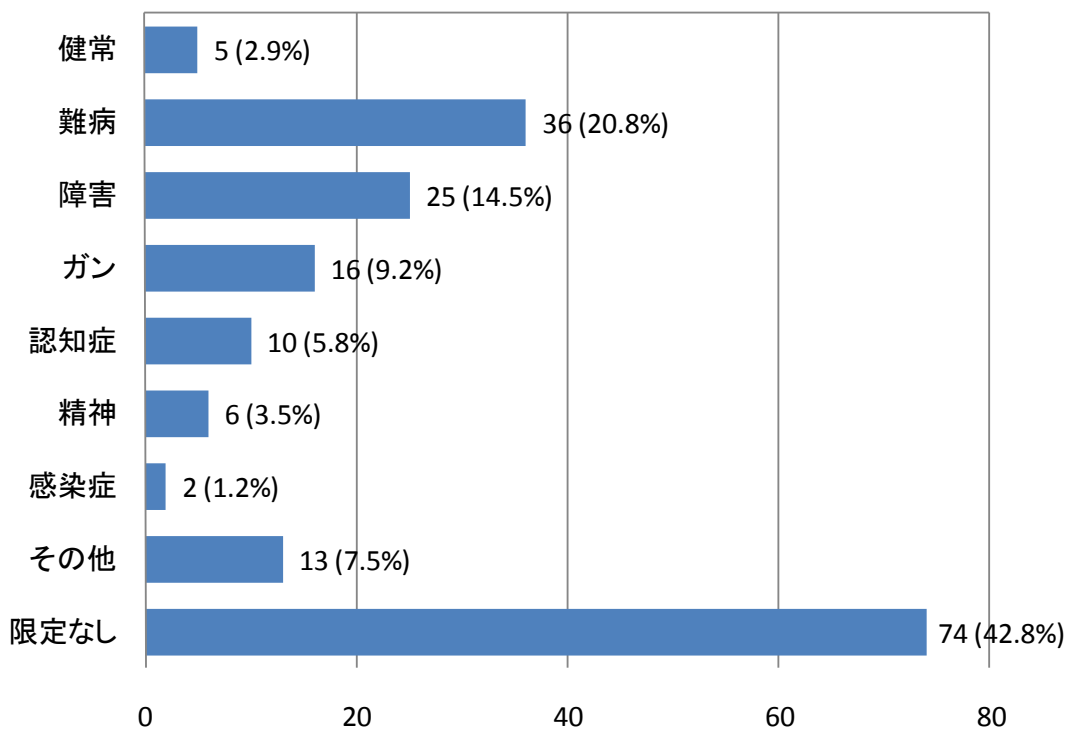
前項で患者・被介護者・住民、および家族を対象としていた173本についてその年代を調べたところ、高齢者を対象としているものが約3割であった。一方で、年代を限定していない研究も4割以上存在した。



	度数	%
高齢者	55	31.8
成人	16	9.2
小児	29	16.8
限定なし	73	42.2
計	173	100.0

6) 対象疾患

対象疾患は、難病が最も多く、ついで障害であった。疾患を限定していない研究は約4割であった。



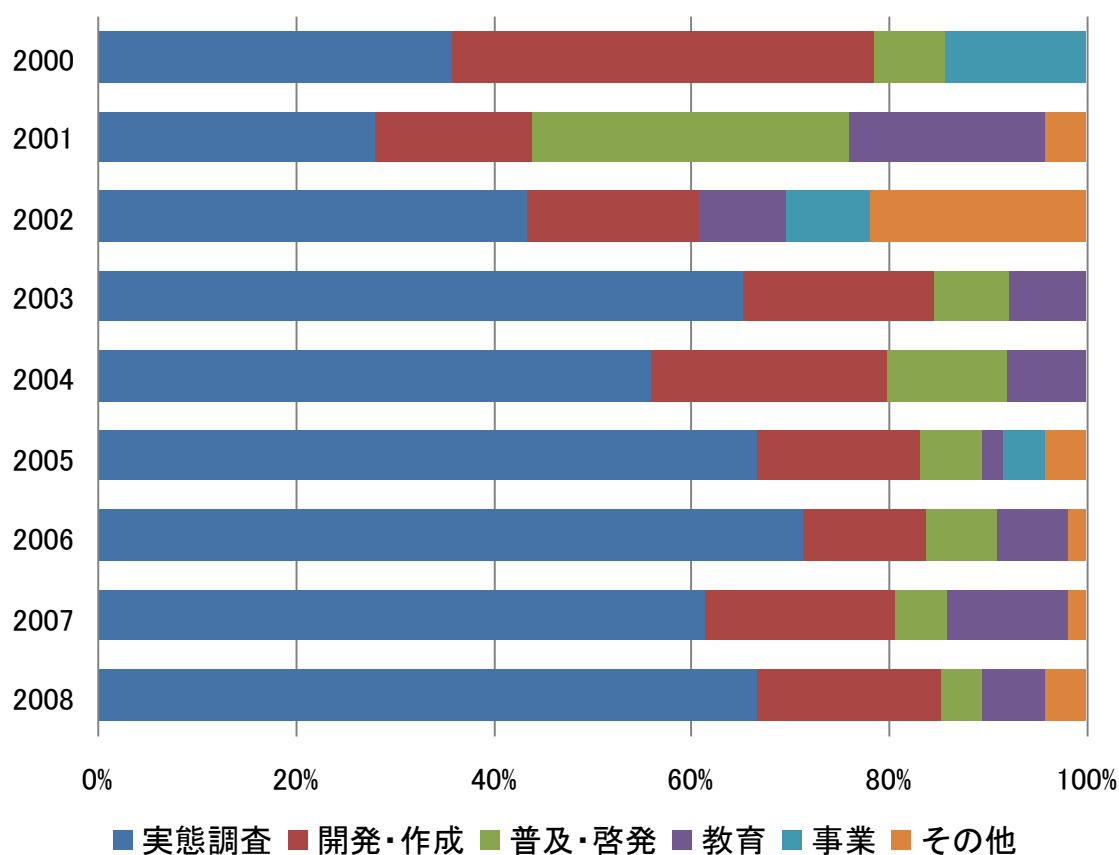
7) 経年的変化

(1) 2000年度～2008年度までの助成研究数の推移

年度	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
数	14	25	23	26	25	48	56	57	48

(2) 研究デザイン数および割合の推移

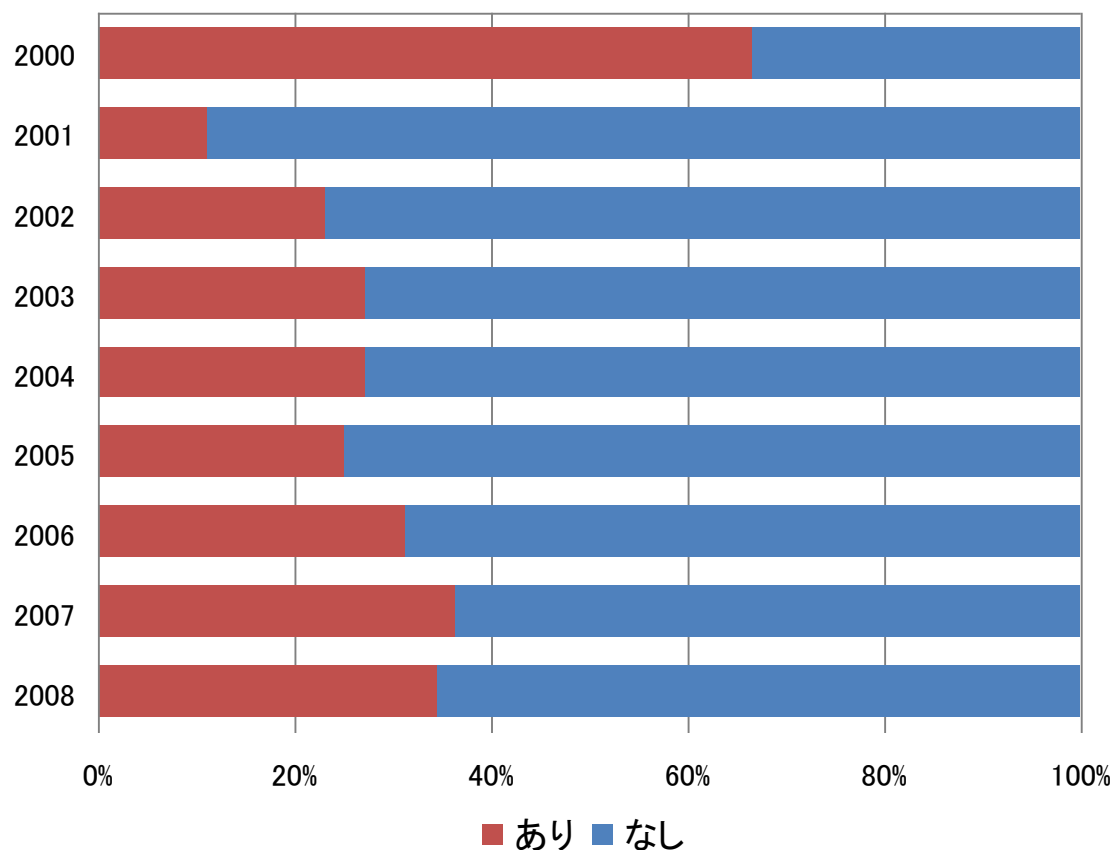
実態調査が6割前後で推移している。一方で、開発・作成、普及・啓発等に関する研究も一定割合行われていることが分かる。



年度	実態調査	開発・作成	普及・啓発	教育	事業	その他	計
2000	5(35.7)	6(42.9)	1(7.1)	0(0.0)	2(14.3)	0(0.0)	14(100.0)
2001	7(28.0)	4(16.0)	8(32.0)	5(20.0)	0(0.0)	1(4.0)	25(100.0)
2002	10(43.5)	4(17.4)	0(0.0)	2(8.7)	2(8.7)	5(21.7)	23(100.0)
2003	17(65.4)	5(19.2)	2(7.7)	2(7.7)	0(0.0)	0(0.0)	26(100.0)
2004	14(56.0)	6(24.0)	3(12.0)	2(8.0)	0(0.0)	0(0.0)	25(100.0)
2005	32(66.7)	8(16.7)	3(6.3)	1(2.1)	2(4.2)	2(4.2)	48(100.0)
2006	40(71.4)	7(12.5)	4(7.1)	4(7.1)	0(0.0)	1(1.8)	56(100.0)
2007	35(61.4)	11(19.3)	3(5.3)	7(12.3)	0(0.0)	1(1.8)	57(100.0)
2008	32(66.7)	9(18.8)	2(4.2)	3(6.3)	0(0.0)	2(4.2)	48(100.0)
計	192(59.6)	60(18.6)	26(8.1)	26(8.1)	6(1.9)	12(3.7)	322(100.0)

(3) 効果検証を行った研究数および割合の推移

『実態調査』を除く研究についてその効果検証の有無を年度毎に調べた。効果検証を行っている研究の割合は、徐々に増加している傾向がみられた。



年度	なし	あり	計
2000	3(33.3)	6(66.7)	9(100.0)
2001	16(88.9)	2(11.1)	18(100.0)
2002	10(76.9)	3(23.1)	13(100.0)
2003	8(72.7)	3(27.3)	11(100.0)
2004	8(72.7)	3(27.3)	11(100.0)
2005	15(75.0)	5(25.0)	20(100.0)
2006	11(68.8)	5(31.3)	16(100.0)
2007	14(63.6)	8(36.4)	22(100.0)
2008	17(65.4)	9(34.6)	26(100.0)
計	102(69.9)	44(30.1)	146(100.0)

3. まとめ

本研究では、2000年度から2008年度までに勇美記念財団が助成を行った研究についての、個別の概要の作成と分類表作成、および全体の傾向把握を行っている。本報告書では、その中でも「分類表の作成」および「傾向分析」についての報告を行った。

分類表は、これまでの助成研究個々のポイントが集約されたものであり、在宅医療についての研究や取り込みを行おうとする際の一助となれば幸いである。

全体的な傾向を見ると、アンケート調査やインタビュー調査などの実態調査が全体の約6割を占めており、経年的にもその傾向は大きくは変わっていない。在宅医療は今後需要が高まると考えられる分野であり、研究・実践の推進のためには、まだ実態調査を積み重ねていく必要があるとも言えるかもしれない。一方で、実態調査だけでなく、在宅医療に関するオリジナルな実践活動や指標作成などについて、多様な立場、視点からの報告が蓄積されており、興味深い。

一方で、効果検証まで行っている研究は、実態調査を除いたものの中では約3割にとどまっていた。多くの研究が、それぞれにオリジナリティーが高いものであるが、今後はその効果や意味についてのエビデンスを構築していくことが求められる。より汎用性、一般化可能性の高い実践的取り組みが蓄積され、普及していくことで、今後日本の在宅医療の水準が向上することが期待できる。

謝辞

本研究は、財団法人在宅医療助成勇美記念財団の助成を受けて行われた。

2000年度～2008年度までの助成研究の分類一覧

No.	タイトル	研究デザイン (1-6)	効果検証	在宅医療 ／在宅ケア	ターミナル ／緩和ケア	対象者 (1-7)	対象者年代 (1-4)	疾患 (1-9)
1	「在宅痴呆性高齢者に対する映像を使った非薬物療法に関する研究」(来島栞志)	2	○	○		1,2	1	5
2	「①神経難病疾患の在宅ケア②神経難病疾患の在宅人工呼吸器療法」(齊藤豊和)	1	-			1	4	2
3	「地域社会でのがん患者支援ネットワーク構築事業」(土橋律子)	3,5	○	○	○	1	4	4
4	「都市における在宅療養を可能にする集合住宅の条件に関する研究」(古谷誠章)	1,2	○	○		1,5	1,4	1,9
5	「在宅結核患者の早期発見に関する研究」(森亨)	1	-			6	-	-
7	「介護保険における『在宅老人側に立つ調整役』に関する研究」(特定非活動法人ライフケア互酬研究会)	2	○	○		5	-	-
9	「佐藤智医師を中心としたライフケアシステムによる20年に及ぶ在宅医療の実践を、経済学、社会学などさまざまな視点から分析し、これを可能にしてきた要因を明らかにするとともに、同様な在宅医療が全国で展開可能となるための実践的な方法論の開発及び政策的な支援方策の研究を行う。」(ライフケア研究会)	1	-	○	○	4	-	-
10	「グループケア・カンファレンスを通しての在宅患者情報の共有化と在宅カルテ常置にかかわる研究」(大森齊)	1,2,3		○	○	3,4	-	-
11	「日帰りホスピス・緩和ケア開発—その開発と成果の検証—」(加藤恒夫)	2,4,6	○	○	○	1,3	2	4
12	「在宅医療研修施設における研修モデルと情報共有化システムの構築」(川島孝一郎)	4		○	○	3	-	-
13	「在宅医療における訪問看護形態の一考察」(倉戸みどり)	4		○	○	1	1	9
14	「在宅療養者に対するホームヘルパーの医療関連行為の実態とそのリスク管理に関する研究」(佐久間志保子)	1	-	○		1	2	9
15	「在宅医療のトータルサポートシステムの開発と研究」(杉山正暉/勝又正孝)	1,3		○	○	1,4	4	9
16	「在宅医療すら必要としない生活空間の実現に向けて—在宅医療の意義とあり方を根本的に見直す—」(関なおみ)	4		○		3	-	-
17	「精神障害者の在宅医療および生活支援に関するニーズ調査～日本型ACTに何が求められているか～」(長直子)	3		○		1	2	6
18	「①欧米の在宅医療から学ぶ 日本型在宅ホスピスの研究、②在宅ホスピスカケアがスムーズに行われるための看護システムの研究、③在宅ホスピスでの遺される子供の「こころ」のサポートケアの研究、④在宅ホスピスへの多職種のアプローチの必要性の研究」(堂園晴彦)	3,4		○	○	3	-	-
19	「在宅歯科診療におけるリスク管理—在宅歯科治療時における循環動態変動に関する研究—」(松尾學)	1	-	○		1	1	8
20	「ディスチャージプラン充実のための看護教育システムの開発」(松沼瑠美子)	2				3	-	-
21	「昆虫の目から見た在宅医療」(矢口昇)	1,3		○		3	-	-
22	「臨床における全人的ケアの教育プログラム(Clinical Total care Education)」(山田千代香/市原美穂)	3			○	3	-	-

研究デザイン 1:実態調査、2:開発・作成、3:普及・啓発、4:教育、5:事業・モデル事業、6:その他

対象者 1:患者・被介護者・住民、2:家族・介護者、3:専門職、4:組織、5:システム、6:その他、7:限定なし

対象者年代 1:高齢者、2:成人、3:小児、4:限定なし

疾患 1:健常、2:難病、3:障害、4:がん、5:認知症、6:精神、7:感染症、8:その他、9:限定なし

No.	タイトル	研究デザイン (1-6)	効果検証	在宅医療 /在宅ケア	ターミナル /緩和ケア	対象者 (1-7)	対象者年代 (1-4)	疾患 (1-9)
23	「高齢者終末期に対する自己決定に影響を及ぼす諸要因の検討」(涌波満)	1	-		○	1	1	9
26	「介護保険における『在宅老人側に立つ調整役』に関する研究」(佐藤智)	2	○	○		1	1	9
33	「在宅における看護と介護のあり方に関する研究」(大越扶貞)	1	-	○		2	4	2,8
34	「医療機関に隣接した高齢者住宅などを活用した自宅以外での『在宅医療』に関する研究」(大橋美幸)	6		○		4	-	-
35	「在宅緩和ケアセンターの開設による在宅緩和ケアの仕組みの開発」(加藤恒夫)	4		○	○	4	-	-
36	「医療的ケアを必要とする要介護高齢者を在宅介護する家族の支援のための基礎的研究 -介護家族の外部資源活用プロセス-」(北素子)	1	-	○		2	4	2,4,7,8
37	「クローン病を対象としたケアネットワークの構築に関する研究」(澤田基一)	2,4,5		○		1,3,7	4	2
38	「高齢者の在宅死を看取った家族の体験の意味の分析と看護者の役割の検討」(須佐公子)	1	-	○	○	2	1	9
39	「在宅療養の選択阻害要因及び在宅医療促進条件に関する研究～『社会的入院』及び「転院」問題に着目して～」(高山俊雄)	1	-			1,3	4	9
40	「難病としての痴呆要介護者に対する総合的・効率的ケア体制の確立に関する研究」(中島紀恵子)	2		○		5	-	-
41	「在宅医師における食の援助と医療福祉の課題」(中村陽子)	1	-	○	○	2,3	3	4,7,9
42	「重症心身障害児の学校での医療的ケアに関する研究～在宅する重症心身障害児の豊かな生活を支援するために～」(林隆)	6				5	-	-
43	「在宅医療における医療機器の使用をめぐる法的問題点の検討」(原田啓一郎)	6		○		5	-	-
44	「在宅痴呆老人における生活環境と認知機能の関連性について」(前島伸一郎)	1	-			1	1	5
45	「在宅医療における感染防止対策の方法等に関する調査研究」(宮坂圭一)	1	-	○		6	-	-
46	「在宅障害児を対象とした新しい口腔清掃器具の評価-特にう蝕予防を目的とした効果的な菌垢除去法の検討-」(明見佳子)	2	○			1	3	1,3
47	「在宅ホスピス推進上欠けている6つの観点～在宅死182例の実証分析から、その解決策を探る～」(村松静子)	1	-	○	○	3	-	-
48	「終末期在宅ケアにおける訪問音楽療法の意義についての研究」(矢津剛)	6		○	○	1	4	2,4
49	「適切な福祉用具の処方と活用による在宅要介護高齢者の自立生活の向上研究と実証 その1.モジュラー型いすの処方と選択・適用」(太田秀樹 [調査委員会委員長])	2	○			1	1	9
50	「介護保険における『在宅老人側に立つ調整役』に関する研究」(佐藤智)	5	○	○		1	1	9
55	「終末期における在宅ホスピス・外来・入院医療費の比較分析と評価」(蘆野吉和)	1	-	○	○	5	-	-
56	「中途視覚障害者『中高年』の三療【鍼・灸・按摩指圧マッサージ師】養成支援プログラム」(内海義司)	4				1	4	3

研究デザイン 1:実態調査, 2:開発・作成, 3:普及・啓発, 4:教育, 5:事業・モデル事業, 6:その他

対象者 1:患者・被介護者・住民, 2:家族・介護者, 3:専門職, 4:組織, 5:システム, 6:その他, 7:限定なし

対象者年代 1:高齢者, 2:成人, 3:小児, 4:限定なし

疾患 1:健常, 2:難病, 3:障害, 4:ガン, 5:認知症, 6:精神, 7:感染症, 8:その他, 9:限定なし

No.	タイトル	研究デザイン (1-6)	効果検証	在宅医療 ／在宅ケア	ターミナル ／緩和ケア	対象者 (1-7)	対象者年代 (1-4)	疾患 (1-9)
57	「身体障害者の在宅における低負荷量による運動療法の確立とその普及」（加藤順一）	1	-			1	4	8
58	「在宅医療支援システム構築と今後の薬局機能・薬剤師のあり方 -医療制度改革に対応した薬局の現状調査-」（串田一樹）	1	-	○		3	-	-
59	「筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者の在宅ケアにおける音楽療法の意義」（近藤清彦）	2	○	○		1	4	2
60	「訪問言語リハビリテーションの効果 -QOL、介護負担を中心とした様々な側面から-」（近藤健）	2	○	○		1	1	3
61	「訪問入浴介護における感染予防について」（桜井直美）	1	-			6	-	-
62	「要介護高齢者の在宅生活における『医療的ケア』行為の試行研究」（柴田範子）	3	○			3	-	-
63	「在宅型及び施設入居型の高齢者の生活及び介護を支援する『思い出玉箱』の実現と成果と測定」（嶋田道子）	2				1	1	5
64	「在宅ホスピスケア・アンケート共有化への試み」（大頭信義）	1	-	○	○	2	4	4
65	「在宅医療医の勤務実態調査」（田城孝雄）	1	-	○		3	-	-
66	「がん終末期患者の在宅移行時から終末までの病院看護師と訪問看護師との連携システムのあり方に関する研究」（長井浜江）	1	-	○	○	3	-	-
67	「がん在宅医療情報検索システムの構築」（永井洋士）	2		○		1	4	4
68	「在宅ケアを担う人の心身の健康についての調査研究 ～訪問サービス従事者のセルフケアをサポートするシステムの構築に向けて～」（播磨靖夫）	1	-			3	-	-
69	「重度心身障害児の在宅医療の推進に係る研究～重度心身障害児の家族の障害受容過程に影響する要因の検討～」（福岡泰子）	1	-	○		2	3	3
70	「保健医療福祉の統合研修プログラム『対人援助のワークショップ』」（藤井博之）	3				3	-	-
71	「痴呆性高齢者グループホームの入居者の入居前後におけるQOLおよび家族との関係性の変化に関する研究」（松井典子）	1	-			2	1	5
72	「在宅療養患者における苦痛をとまなう自覚症状の程度と医療者の認識に関する研究」（松村真司）	1	-	○		1	1	9
73	「在宅患者に音声と映像による緊急連絡システムを導入することについての検討」（矢田みゆき）	2		○		1	4	9
74	「特定機能病院における在宅への退院支援に関する調査・研究 -幸福な在宅療養生活への退院支援方法の確立を目指して-」（柳澤愛子）	1	-	○	○	1	4	9
75	「在宅がん末期診療における麻薬利用率の検討（多施設調査）」（和田忠志）	1	-	○	○	1	4	4
76	「先駆的に在宅医療を実践している医師たちが中心になり、大学、行政などと協力し、日本に真の在宅医療が広がるための討議と実践をする会」（在宅医療推進のための会）	1,4		○	○	1,3	4	9
81	「在宅患者居室空間のにおいの実態調査と、消臭機能を付加した繊維素材で作製した、医療用消臭カバーによる尿・便臭消臭効果の解析」（板倉朋世）	1	-	○		3	-	-

研究デザイン 1:実態調査, 2:開発・作成, 3:普及・啓発, 4:教育, 5:事業・モデル事業, 6:その他

対象者 1:患者・被介護者・住民, 2:家族・介護者, 3:専門職, 4:組織, 5:システム, 6:その他, 7:限定なし

対象者年代 1:高齢者, 2:成人, 3:小児, 4:限定なし

疾患 1:健常, 2:難病, 3:障害, 4:がん, 5:認知症, 6:精神, 7:感染症, 8:その他, 9:限定なし

No.	タイトル	研究デザイン (1-6)	効果検証	在宅医療 /在宅ケア	ターミナル /緩和ケア	対象者 (1-7)	対象者年代 (1-4)	疾患 (1-9)
82	「在宅緩和ケアサービスにおけるウェブ型患者登録システムの構築」(岡部健)	2		○	○	3	-	-
83	「ITを活用した在宅高齢者の安否確認ネットワークシステムの効果」(小川晃子)	2	○	○		1	1	9
84	「ナラティブホーム構想-福祉・医療・介護のクリニカルガバナンスを目指して-」(佐藤伸彦)	3		○		1,3	1	9
85	「痴呆症状をもつ高齢者の一人暮らし ドイツにおける在宅医療モデル」(重竹芳江)	1	-	○		1	1	5
86	「介護保険制度の谷間に取り残されている高齢者の実態と効果的な支援のあり方」(鈴木浩子)	1	-	○		1	1	9
87	「高知市東部地区における在宅ホスピスケアに対するネットワークシステムの構築」(原一平)	1,2		○	○	2,3	4	4
88	「健康医療福祉の統合研修プログラム『保健医療福祉を学ぶ人のための対人援助のワークショップ』」(藤井博之)	4				3	-	-
89	「家族が食べているものから容易に工夫できる、嚥下障害患者の食事メニューの作成」(細川真乃子)	2		○		6	-	-
90	「支援費制度下における在宅障害児の母親に対する育児負担感とサービス利用の関連性-サービス利用の制度転換に伴う変化を中心に-」(松澤明美)	1	-	○		2	3	2,3
91	「障害者への在宅医療の調査・研究」(荒木暁子)	1,2	○	○		2	3	3
92	「24時間ケアの充実における経済効果と使用者の満足度の研究」(荻原実)	1	-			1,4	1	9
93	「在宅医療に従事する人材養成の支援」(遠藤美由紀/佐藤夏織)	4	○	○	○	3	-	-
94	「在宅医療に従事する人材養成の支援」(岡田孝弘)	2		○		3	-	-
95	「障害者への在宅医療の調査・研究」(小長谷百絵)	1	-	○		2	4	2
98	「障害者への在宅医療の調査・研究」(隅田好美)	1	-	○		1	4	2
100	「障害者への在宅医療の調査・研究」(山本俊至)	1	-	○		1	2	2
101	「障害者への在宅医療の調査・研究」(吉野真弓)	1	-	○		2,3	3	2,3
102	「障害者への在宅医療の調査・研究」(渡部響子)	1	-			1	4	6
103	「在宅医療に従事する人材養成の支援」(和田忠志)	3		○		3	-	-
104	「医療的ケアを必要とする見の家族の経験-在宅療養移行に関する質的研究-」(岡崎香織)	1	-	○		2	3	3
105	「在宅ケアにおける精神症状緩和を支援するための緩和ケアチーム・在宅ケアチーム連携システムの構築」(小川朝生)	2		○	○	3	-	-

研究デザイン 1:実態調査, 2:開発・作成, 3:普及・啓発, 4:教育, 5:事業・モデル事業, 6:その他

対象者 1:患者・被介護者・住民, 2:家族・介護者, 3:専門職, 4:組織, 5:システム, 6:その他, 7:限定なし

対象者年代 1:高齢者, 2:成人, 3:小児, 4:限定なし

疾患 1:健常, 2:難病, 3:障害, 4:ガン, 5:認知症, 6:精神, 7:感染症, 8:その他, 9:限定なし

No.	タイトル	研究デザイン (1-6)	効果検証	在宅医療 /在宅ケア	ターミナル /緩和ケア	対象者 (1-7)	対象者年代 (1-4)	疾患 (1-9)
106	「地域在住の高齢者や身体障害者の介護者における行動体力評価と効率的介助法の確立とその普及」(加藤順一)	6	○			1	2	1
107	「現在がん患者対象に限定されている緩和ケアサービスを、在宅で療養を続けている非悪性疾患患者、特に神経難病患者(ALS:筋萎縮性側索硬化症)に応用してゆこうとする場合、どのようなニーズの差異があるのか、まず当事者の視点を明らかにしてゆくことより検証する。」(川口有美子)	1	-	○	○	2	4	2
108	「団塊世代の終末期を『尊厳生』として力強く生きる、予防重視システムの試みー結び【相互扶助】に依るコーポラティブ・ケアハウスの可能性ー」(川島佐知子)	5				1	4	9
109	「わが国の在宅医療における医療ソーシャルワーカー実践事例の調査研究ー医療ソーシャルワーカーの国家資格化と養成カリキュラムのあり方を求めてー」(京極高宣)	1	-	○		3	-	-
110	「プライマリ・ケアチームが在宅緩和ケアを円滑に提供するために必要な専門職緩和ケアチームとの連携について」(斎藤信也)	1	-	○	○	3	-	-
111	「炎症性腸疾患が患者とその家族、両者のQOLと家族全体のもつ家族機能に及ぼす影響についての研究」(坂之上香)	1	-			1	4	2
112	「在宅ホスピス・緩和ケアを活用するために必要な基礎的情報をまとめた冊子の作成」(桜井隆)	2		○	○	3	-	-
113	「過疎集落における住民の自立生活支援ー定住を可能にする健康と日常生活支援の検討ー」(杉井たつ子)	1	-			1	1	9
114	「地域に暮らす精神疾患患者のQOLに関する研究」(高橋聡美)	1	-	○		1	2	6
115	「神経難病患者に対する訪問看護が患者と家族のQuality of Lifeに及ぼす影響ーSchedule for the Evaluation of Individual Quality of Life-Direct Weighting、および日本版在宅ケアアウトカム票による検討ー」(高橋陽子)	1	-	○		1	4	2
116	「在宅要支援・要介護支援高齢者のもつ転倒恐怖感と外出・社会参加の関連」(竹内さやか)	1	-			1	1	9
117	「在宅ケアにおける困難事例に関する研究と対応ツールの作成」(武ユカリ)	1	-	○		3	-	-
118	「在宅脳血管障害者・家族と作業療法士の双方が目標の共有を図ることのできるアセスメントシートの開発」(千田直人)	2	○	○		1	2	3
119	「初期臨床研修における訪問診療教育の方法とその効果ー研修医、指導医、患者・家族の3視点からの実績評価と展望」(富塚太郎)	1	-	○		1,3	4	9
120	「終末期在宅医療の効果的広報の試みー在宅看取り遺族による手記文集を用いた広報活動ー」(長尾和宏)	3		○	○	4	-	-
121	「口腔ケア推進プロジェクト:バーチャル口腔ケア研修支援センターによる介護者初期研修システムー摂食・嚥下リハビリテーションとしての口腔ケアの普及ー」(永長周一郎)	1,2		○		3	4	9
122	「NICU退院児の継続看護に対するニーズの検討」(中澤貞代)	1	-	○		1,3	3	3
123	「在宅高齢者の自立排泄を維持するための、訪問リハビリと排泄環境整備の考え方」(中間浩一)	1	-	○		3	-	-
124	「長期在宅療養患者の家族介護者への介護負担の軽減に向けた看護音楽療法の試み」(那須実千代)	2	○	○		2	1	9

研究デザイン 1:実態調査, 2:開発・作成, 3:普及・啓発, 4:教育, 5:事業・モデル事業, 6:その他

対象者 1:患者・被介護者・住民, 2:家族・介護者, 3:専門職, 4:組織, 5:システム, 6:その他, 7:限定なし

対象者年代 1:高齢者, 2:成人, 3:小児, 4:限定なし

疾患 1:健常, 2:難病, 3:障害, 4:ガン, 5:認知症, 6:精神, 7:感染症, 8:その他, 9:限定なし

No.	タイトル	研究デザイン (1-6)	効果検証	在宅医療 /在宅ケア	ターミナル /緩和ケア	対象者 (1-7)	対象者年代 (1-4)	疾患 (1-9)
125	「子どもの医療的ケアに関わる保健・医療・教育職のニーズ把握と情報提供の試み」(奈良間美保)	1,3	○	○		3	-	-
126	「福祉用具使用時の安全管理の動向-印旛村における4年間の変化-」(縄井清志)	1	-	○		3	-	-
127	「高齢者終末期医療における経管栄養に関する研究」(西岡弘晶)	1	-	○	○	1,2	1,4	9
128	「神経難病と告知された患者の心理的体験のプロセスに関する検討-看護相談設置に向けて-」(野上さとみ)	1	-			1	4	2
129	「『“記憶”と“記録”の作り方』についての実践と研究 ~高齢期から終末期を生きる人のライフストーリーに着目したプログラムの開発と普及~」(播磨靖夫)	2,3			○	1	1,4	9
130	「非がん疾患の在宅ホスピスケアの方法の確立のための研究」(平原佐斗司)	1	-	○	○	1	4	2,5,8
131	「中山間地域に居住する高齢者を取り巻く生活環境と健康維持に関する研究」(細川つや子)	1	-	○		1	1	9
132	「新潟県中越大地震により被災した、認知症高齢者と家族の困難と認知症症状の変化に関する研究」(村川英伸)	1	-	○		1	1	5
133	「イギリスにおける障害児とその家族のためのRespite Careを基にわが国のRespite Careの構築を図るための実証的研究」(山口雅子)	6		○		6	-	-
134	「民話のプレゼンテーションによる高齢者のQOL向上と地域との交流」(横内定明)	2	○			1	1	9
135	「過疎高齢化が進む山村地域における障害者の在宅医療と居住環境のあり方研究」(石川敬治郎/高橋典成)	1	-	○		1,3	1	3
136	「先駆的に在宅医療を実践している医師たちが中心になり、大学、行政などと協力し、日本に真の在宅医療が広がるための討議と実践をする会 テーマ:在宅医療をするためには何が必要なのか」(平原 佐斗司/藤田 拓司)	4		○	○	3	-	-
138	「利用者が作る在宅ケアシステムの実証研究(2年研究) 地域でのケアシステム構築に向けた指標作成」(篠原陽子)	2		○	○	3	-	-
139	「長期療養児の在宅自律支援プログラム -日本の小児在宅人工呼吸療養支援とニュージーランドのプログラムを比較して-」(鈴木真知子)	1	-	○		2,3	3	2,8
141	「利用者が作る在宅ケアシステムの実証研究(2年研究)」(馬袋秀男)	1	-	○	○	1	4	9
142	「利用者が作る在宅ケアシステムの実証研究(2年研究)」(藤田伸輔)	5		○		5	-	-
143	「利用者が作る在宅ケアシステムの実証研究(2年研究) 小児在宅ケアシステムの構築とその実証研究」(吉野真弓)	1	-	○	○	2,3	-	-
144	「在宅ホスピスケアにおける終末期の精神的苦悩の緩和に関する調査研究-地域の伝統文化・死生観との関わりから-」(相澤出)	1	-	○	○	2	4	9
145	「小児の在宅人工呼吸療法における介護者のレスパイトケアのための基礎研究 -夜間滞在型訪問看護システムのパイロットスタディを通して-」(生田まちよ)	2	○	○		1	3	2
146	「在宅医療のソーシャルワーク実践事例に関する調査研究 -各地域で実践されている在宅医療システムおよびソーシャルワークの在り方と今後の課題について-」(石田路子)	1	-	○		3	-	-

研究デザイン 1:実態調査, 2:開発・作成, 3:普及・啓発, 4:教育, 5:事業・モデル事業, 6:その他

対象者 1:患者・被介護者・住民, 2:家族・介護者, 3:専門職, 4:組織, 5:システム, 6:その他, 7:限定なし

対象者年代 1:高齢者, 2:成人, 3:小児, 4:限定なし

疾患 1:健常, 2:難病, 3:障害, 4:ガン, 5:認知症, 6:精神, 7:感染症, 8:その他, 9:限定なし

No.	タイトル	研究デザイン (1-6)	効果検証	在宅医療 /在宅ケア	ターミナル /緩和ケア	対象者 (1-7)	対象者年代 (1-4)	疾患 (1-9)
147	「回復期リハビリ病棟を退院した患者の生活継続の困難度に影響する要因の検討ー在宅における適切な条件作りに向けてー」(伊藤恵里子)	1	-	○		1,2	1	9
148	「小児在宅ホスピスの果たす役割とグリーフ教育の重要性:米・豪・英比較報告と今後の課題」(岩本喜久子)	6		○	○	6	-	-
149	「高齢者における摂食・嚥下障害と認知機能との関連性の検討」(大沢愛子)	1	-			1	1	3
150	「在宅ホスピスケアのボランティア育成事業 1.アメリカで在宅ホスピスボランティアの育成に従事している講師を招聘して研修会を開催し、ボランティア育成について学ぶ。2.在宅ホスピスボランティア育成マニュアルを海外講師と協同作成する。」(川越博美)	2,3	○	○	○	3	-	-
151	「ソーシャルサポートの観点から見た一人暮らし高齢者への支援ー拠点としての地域包括支援センターの役割ー」(川野英子)	1	-	○		1	1	9
152	「障害者のための在宅医療」、「『高度排尿・排便機能障害』を持つ児童の在宅における医療的なケアへの取り組み支援と実態調査」(木原久)	1,3		○		2	3	2
153	「『多摩市胃腸ネットワーク』の構築」(小池順平)	3,4		○		1,3	4	9
154	「急性期病院～在宅の継続医療を保証する地域連携システムと医療ソーシャルワーカー支援評価研究ー慢性期病院と在宅間の移行支援を中心に」(杉崎千洋)	1	-	○		1,2	1	9
155	「パーキンソン病における運動機能と心理・認知機能の低下が手段的日常生活活動へ及ぼす影響についての研究」(高島千敬)	1	-	○		1	2,3	2
156	「障害者のための在宅医療」、「人工呼吸器をつけた子どもの預かりサービスの構築」(高橋昭彦)	2	○	○		1	3	2
157	「在宅医療におけるケア提供者(看護師・ヘルパー・介護家族)の感染予防に関する意識、知識、技術の現状を把握し、その結果を踏まえ在宅医療におけるケア提供者の感染予防に関する意識、知識、技術を普及・向上させるための教育方法を検討する。」(立花亜紀子)	1	-	○		3	-	-
158	「認知症を持つ対象への訪問看護師による身体的アセスメント方法の確立:エキスパート看護師へのインタビューをもとにしたアセスメント法の構造化」(千原明美)	1	-	○		3	-	-
159	「在宅通所サービス利用者への『口腔機能の向上』支援プログラムの構築」(堤千代)	1	-			3	-	-
160	「在宅医療の現場で必要される『道具』に関する質的研究ー往診かばんの中身から在宅医療の守備範囲を考察するー」(鶴岡優子)	1	-	○		3	-	-
161	「第三類型での看取りと家族・コミュニティ機能についての検証」(富山宗徳)	1	-		○	3	-	-
162	「在宅で精神障害者を介護している家族を支援する家族支援方法の検討」(豊島泰子)	1	-	○		3	-	-
163	「口腔ケア研修支援センターによる口腔ケア推進プロジェクトー摂食・嚥下リハビリテーションとしての口腔ケアの普及ー」(永長周一郎)	1,4	○			3	-	-
164	「医療処置を必要とする終末期がん患者の病院から在宅療養への移行を支える退院支援の検討ー家族が自宅でできるケアガイドブックの作成ー」(中山祐紀子)	1,2		○	○	2,3,7	4	4
165	「在宅静脈栄養法を必要とする子どもと家族の生活の実態に関する調査研究」(西野郁子)	1	-	○		1,2,3	3	9

研究デザイン 1.実態調査, 2.開発・作成, 3.普及・啓発, 4.教育, 5.事業・モデル事業, 6.その他

対象者 1:患者・被介護者・住民, 2:家族・介護者, 3:専門職, 4:組織, 5:システム, 6:その他, 7:限定なし

対象者年代 1:高齢者, 2:成人, 3:小児, 4:限定なし

疾患 1:健常, 2:難病, 3:障害, 4:ガン, 5:認知症, 6:精神, 7:感染症, 8:その他, 9:限定なし

No.	タイトル	研究デザイン (1-6)	効果検証	在宅医療 /在宅ケア	ターミナル /緩和ケア	対象者 (1-7)	対象者年代 (1-4)	疾患 (1-9)
166	「在宅高齢者における嚥下機能の廃用萎縮防止プログラムの確立ー嚥下回数計を用いたリハビリテーションメニューの開発ー」(野原幹司)	1	-			1	1	9
167	「医療過疎地域における在宅医療福祉システムの構築ー千葉県山武地区の地域医療システム構築における現状分析と課題解決の事例からー」(平井愛山)	1	-	○	○	4	-	-
168	「末期がん患者の在宅療養・在宅死を可能にするための介護者向けケアマニュアルの作成とその効果の検討」(福井小紀子)	2	○	○	○	2	4	4
169	「在宅がん療養者の家族関係にかかわるスピリチュアルニーズの特徴」(扶藤由起)	1	-	○	○	4	-	-
170	「乳癌終末期の悪臭や出血に対する緩和手術の是非に関する研究ーより良い在宅医療を目指した外科医の役割ー」(山下純一)	1	-	○	○	1	4	4
171	「要介護者に対する介護負担感と要介護者の有する褥瘡との関連に関する研究」(山本洋介)	1	-	○		2	2	9
172	「子世代からみた後期高齢者の老いと死」(湯沢八江)	1	-	○	○	1	1	1
173	「小児プライマリ・ケアにおける医師ー患者間の検討ー医療的ケアが必要な子どもを抱える家族へのケアシステム構築のためのニーズ調査ー」(浦水理恵)	1,2		○	○	2	3	9
175	「小児在宅医療を支える訪問看護師の役割と通所看護の実現に向けて」(阿部須麻子)	1	-	○	○	2,3	3	9
177	「障害者のための在宅医療」(小澤芳子)	1	-	○		2,3	4	3
181	「在宅医療に従事する看護師のスキルアッププラン」(中村義美)	4		○		3	-	-
183	「在宅している脳外傷者のケア内容と妥当性の検討」(高橋景子)	1	-	○		1	4	3
184	「先駆的に在宅医療を実践している医師たちが中心になり、大学、行政などと協力し、日本に真の在宅医療が広がるための討議と実践をする会 テーマ：①在宅療養支援診療所に関する研究②在宅医の教育プログラムに関する研究」(太田秀樹)	4		○	○	3	-	-
187	「在宅人工呼吸器、在宅酸素療法(筋ジストロフィー)患者の在宅福祉サービス及び在宅医療サービスの導入状況について(障害者自立支援法施行後の支給時間と自己負担額の変化について)」(相沢祐一)	1	-	○		1	4	2
189	「医療的ケアを必要とする子どもの在宅療養支援体制の整備に向けて」(伊藤京子)	2		○		2,3	3	9
190	「居宅及び施設における高齢者のための新方式中枢神経系トレーニングシステムの研究・開発・評価(協働性トレーニングマシン開発のステップ)」(岩尾智)	2	○	○		1	1	9
191	「訪問看護師に対し『在宅ケアにおける感染予防』に関する知識、技術を教えるための教育コンテンツの研究、ならびに効果的な教育方法の検討」(印田宏子)	3		○		3	-	-
192	「乳がん術後のADL・QOLー作業療法介入の必要性の検討ー」(大澤彩)	1	-	○	○	1	4	4
193	「在宅医療実践のためのワーク・ライフ・バランスに関する基礎的研究」(大出春江)	6		○		3	-	-

研究デザイン 1:実態調査, 2:開発・作成, 3:普及・啓発, 4:教育, 5:事業・モデル事業, 6:その他

対象者 1:患者・被介護者・住民, 2:家族・介護者, 3:専門職, 4:組織, 5:システム, 6:その他, 7:限定なし

対象者年代 1:高齢者, 2:成人, 3:小児, 4:限定なし

疾患 1:健常, 2:難病, 3:障害, 4:ガン, 5:認知症, 6:精神, 7:感染症, 8:その他, 9:限定なし

No.	タイトル	研究デザイン (1-6)	効果検証	在宅医療 /在宅ケア	ターミナル /緩和ケア	対象者 (1-7)	対象者年代 (1-4)	疾患 (1-9)
194	「『医学生・初期研修医のための緩和ケアセミナー』の開催」(岡部健)	4		○	○	3	-	-
195	「在宅脳血管障害患者の男性介護者における介護経験の意味」(奥山貴弘)	1	-	○	○	2	9	3
196	「地域の薬局・薬剤師による在宅医療支援の促進に向けた行政機関等のあり方に関する調査研究」(尾崎俊雄)	1	-	○		3	-	-
197	「地域で終末期医療に従事する専門職を育成するために～在宅と生きる意味を支える援助に向けた人材育成と地域連携の試み～」(小澤竹俊)	1,2,4	○	○	○	2,3	9	9
198	「在宅リンパ浮腫に対するセルフケア講習会実施のための人材養成」(上島隆秀)	4		○	○	3	-	-
199	「在宅神経難病患者のリハビリテーションに対するニーズの検討-在宅神経難病患者に対するリハビリテーション・ケアが果たす役割について-」(上出直人)	1	-	○	○	1	4	2
200	「在宅緩和ケアにおけるいわゆる保険外サービスの実態と望ましいサービス供給のあり方」(斎藤信也)	1	-	○	○	3	-	-
201	「在宅ALS患者に対する訪問診療とリハビリテーションの関わりについて」(早乙女郁子)	1	-	○		1	4	2
202	「食事介助に関する家族の知識活用と家族教育の在り方に関する研究」(坂本章子)	1	-	○		2	4	9
203	「在宅で患者と家族の尊厳を守るための終末期から看取り見送りへの連携サポート研究事業」(櫻井清一)	1,3		○	○	2	4	9
204	「在宅での看取りの質が遺族の悲嘆プロセスに及ぼす影響の社会心理学的研究-在宅で看取った遺族たちのUnfinished Taskへの取り組みと悲嘆の継続的变化に焦点をあてて-」(佐藤貴之)	1	-	○	○	2	4	9
206	「地域在住パーキンソン病介護者の基本的日常生活活動領域における介護負担の特徴-持続的な在宅生活を阻害する介護負担の探索-」(柴喜崇)	1	-	○		2	4	2
207	「子どもの死と看取り-小児集中治療の現場から緩和・在宅医療へ-」(清水直樹)	1	-	○	○	1	3	9
208	「在宅で排泄援助を受けている筋萎縮性側索硬化症療養者の自尊感情」(白石知子)	1	-	○		1	4	2
209	「財政再建途上の道内地方自治体における在宅サービス実態に即応した現任者研修の試み-在宅ケア従事者間の連携促進-」(スーディ神崎和代)	1,4		○		2,3	1	9
210	「在宅医療を担う診療所のロジスティクス-医薬品、医療材料の購入、在庫管理の相互補助に関する提案-」(高橋貴美子)	1	-	○	○	3	-	-
211	「後期高齢者の終末期訪問看護の内容と特性に基づく必須アセスメントの抽出に関する研究」(田中敦子)	1	-	○	○	3	-	9
212	「小児における在宅非侵襲的陽圧換気補助(NPPV)ケアシステム確立のための調査および研修」(土島智幸)	1,4		○		2,3	3	2
213	「神経難病患者の在宅療養支援においてインターネット映像通信機能を用いた専門医への相談(コンサルテーション)の有用性と遠隔医療の運用指針の検討」(中井三智子)	1	-	○		3	-	2
214	「高齢者の機能回復のための短期集中(6週間)リハビリプログラムの実効性とそのガイドライン策定に向けて」(中間浩一)	2	○	○		1	1	8

研究デザイン 1:実態調査, 2:開発・作成, 3:普及・啓発, 4:教育, 5:事業・モデル事業, 6:その他

対象者 1:患者・被介護者・住民, 2:家族・介護者, 3:専門職, 4:組織, 5:システム, 6:その他, 7:限定なし

対象者年代 1:高齢者, 2:成人, 3:小児, 4:限定なし

疾患 1:健常, 2:難病, 3:障害, 4:ガン, 5:認知症, 6:精神, 7:感染症, 8:その他, 9:限定なし

No.	タイトル	研究デザイン (1-6)	効果検証	在宅医療 /在宅ケア	ターミナル /緩和ケア	対象者 (1-7)	対象者年代 (1-4)	疾患 (1-9)
215	「在宅ALS患者及び、家族における音楽療法の有効性をさぐる ～生体面、QOL評価など複数の方法を用いて～」(中山ヒサ子)	2	○	○		1	2	2
216	「乾燥マッシュポテトの素を用いたミキサー食の半固形化の検討と胃腸患者への注入の試み」(成枝由季子)	2				1	4	8
217	「居宅における車いす事故の現状調査」(縄井清志)	1	-			1,4	1	9
218	「排便障害のある小児の在宅ケア支援プログラムに関する研究」(西田みゆき)	2	○	○		2	3	3
219	「在宅の重症心身障害児のコミュニケーション改善に向けた看護音楽療法の試み」(平松則子)	2	○	○		1	4	3
220	「健康関連QOLを考慮した最重症・慢性閉塞性肺疾患患者に対する潜在的治療法の探求」(齋岡直人)	1,2	○	○		1	4	8
221	「市町村合併による過疎地高齢者への医療機能変化と対策 -過疎地在宅医療が機能するための行政医療システムとは-」(古本尚樹)	1	-			3	-	-
222	「地域で暮らし続けることを住民と共に考えるプロセスの一考察 -訪問看護師の新たな役割として～」(渡邊美也子)	1	-			1	1	9
224	「小児の訪問看護の採算性にかかわる要因とケアの実際およびケアへの満足度」(荒木暁子)	1	-	○		2,3	3	3
230	「知名度を高め 経営の安定化をはかる」(菊池美津子)	1,3		○		1,3	4	9
231	「脊髄損傷者の排尿管理に関する在宅医療ニーズ」(小林裕美)	1	-	○		1,3	4	3
243	「自律的経営を指向した訪問看護ステーションのための、標準的パラシト・スコアカードの作成とその有用性の検証」(松田栄子)	2,4	○	○		3	-	-
244	「交通事故障害に起因する在宅医療の調査・研究」(結城美智子)	1	-	○		1	2,4	3
246	「男性介護者の現状 -インタビューの中から家事・介護・精神的支援を検討する」(生田由加利)	1	-	○		2	4	9
247	「小児在宅人工呼吸器患者の診療における開業医との連携」(石井栄三郎)	1,2,4		○		2,3	3	2,3
248	「在宅における看取りを支える家族の介護力量の概念分析」(稲垣順子)	1	-	○	○	2	4	9
249	「重度の中核神経疾患と慢性呼吸不全を併発した超重症児における在宅人工呼吸器療法」(今高城治)	1	-	○		1	3	2,3
250	「在宅における脳血管障害療養者の口腔ケアフローチャートの開発」(今福恵子)	1,2		○		1,3	4	3
251	「在宅緩和ケア支援センター」の推進及び機能強化のための課題とそのあり方に関する研究 -在宅がん患者の視点を重視した社会科学的アプローチによる政策提言-」(尾崎俊雄)	1	-	○	○	5	-	-
252	「訪問看護ステーションに出向いておこなう『草の根的』な事例検討支援事業の実施と評価」(加藤基子)	4	○	○	○	3	-	-
253	「在宅医療を目指すNICUにおける家族ケア ～当事者の立場から」(亀井智泉)	1	-	○		2	3	9
254	「在宅で過ごすことの多い障害児・慢性疾患の病児が健常児と共に地域の保育園で育ちあう環境を保障するための基礎調査」(木村留美子)	1	-	○		5	-	-

研究デザイン 1:実態調査, 2:開発・作成, 3:普及・啓発, 4:教育, 5:事業・モデル事業, 6:その他

対象者 1:患者・被介護者・住民, 2:家族・介護者, 3:専門職, 4:組織, 5:システム, 6:その他, 7:限定なし

対象者年代 1:高齢者, 2:成人, 3:小児, 4:限定なし

疾患 1:健常, 2:難病, 3:障害, 4:ガン, 5:認知症, 6:精神, 7:感染症, 8:その他, 9:限定なし

No.	タイトル	研究デザイン (1-6)	効果検証	在宅医療 ／在宅ケア	ターミナル ／緩和ケア	対象者 (1-7)	対象者年代 (1-4)	疾患 (1-9)
255	「急性期病院から立ち上げる在宅医療推進システムの構築に関する研究」(桑原直行)	1,2	○	○		1,2,3,4	4	9
256	「血友病患者に対するホームエクササイズ開発研究」(後藤美和)	2	○			1	4	2
257	「パーキンソン病患者の主たる介護者の介護負担に影響を与える、基本的日常生活活動領域における因子に関する研究-持続可能な在宅生活に必要な介護方略の探索-」(柴喜崇)	1	-	○		2	4	2
258	「在宅ケアにおけるモンスターベシエントに関する調査」(武ユカリ)	1	-	○		3	-	-
259	「精神疾患を有する人を対象とした日本語版リカバリー評価尺度の開発と、リカバリーの関連要因に関する研究」(千葉理恵)	1,2		○		1	2	6
260	「終末期小児がん患者のための、在宅医療ネットワーク構築に関する研究」(辻尚子)	1,2		○	○	1,4	3	4
261	「医師による未成年への死の教育と教育方法の研究～在宅医療、在宅死推進のための意識変革方法として～」(永森克志)	4	○		○	1	2	1
262	「高齢者虐待における看護介入のあり方-共依存関係に焦点を置いて-」(難波貴代)	1,2		○		2,3	1	9
263	「高度医療ケアを必要とする子どもの学校生活と家族・学校の連携に関する実態調査」(西野郁子)	1	-	○		1,2	3	9
264	「在宅慢性脳卒中片麻痺者の麻痺側上肢管理能力に対する実態調査と介入効果」(能村友紀)	1,2	○	○		1	4	3,8
265	「寝たきり患者への経腸栄養剤投与量に関する考察」(長谷川正光)	1	-			1	1	9
266	「在宅で暮らす認知症高齢者の服薬状況と副作用との関連に関する研究」(林原好美)	1	-			1	1	5
267	「在宅認知症患者の介護者における介護負担感と血液凝固能の関連および有酸素運動の効果に関する研究」(平野明美)	6	○	○		2	1	5
268	「療養者への援助に困難をきたしている訪問看護師の体験構造」(平山香代子)	1	-	○		3	-	-
269	「高齢者が安心して暮らせる在宅遠隔サポートシステムの開発に関する予備的研究 富山県山間部の地域高齢者の転倒防止に関する調査介入の質的分析」(二本淑子)	1	-	○		1	1	9
270	「医療・衛星材料確保に関する退院支援マニュアルの開発」(前田修子)	1,2		○		3	-	-
271	「訪問看護場面における看護師がみる看護師の熟練のわざ」(丸山育子)	1	-	○		3	-	-
272	「訪問看護師を対象とした全国的な在宅看取り強化プログラムの評価」(宮下光令)	2	○	○	○	3	-	-
273	「在宅医療を推進するための新モニタリングシステムの開発および検証」(目黒道生)	1	-	○		1	1	9
274	「在宅ホスピスケアを低年齢層(小学校高学年～中学生)に紹介する冊子形態の絵本制作とその配布」(吉田恵子)	3		○	○	7	-	-
275	「小児在宅医療をサポートする医療・福祉・教育連携ネットワーク構築における基盤研究」(吉野浩之)	1,3,4	○	○	○	3,4,7	-	-

研究デザイン 1:実態調査, 2:開発・作成, 3:普及・啓発, 4:教育, 5:事業・モデル事業, 6:その他

対象者 1:患者・被介護者・住民, 2:家族・介護者, 3:専門職, 4:組織, 5:システム, 6:その他, 7:限定なし

対象者年代 1:高齢者, 2:成人, 3:小児, 4:限定なし

疾患 1:健常, 2:難病, 3:障害, 4:ガン, 5:認知症, 6:精神, 7:感染症, 8:その他, 9:限定なし

No.	タイトル	研究デザイン (1-6)	効果検証	在宅医療 ／在宅ケア	ターミナル ／緩和ケア	対象者 (1-7)	対象者年代 (1-4)	疾患 (1-9)
278	「1. 終末期在宅療養上の困難に関する実態調査と困難の評価ツール作成 2. 終末期在宅療養上の困難の評価と生活の質の評価」(逢坂容子)	2		○	○	2	1	9
280	「最期をどう迎えるか」(大友宣)	1	-	○	○	1	4	9
284	「在宅末期医療における治療の差し控え・中止に関する基礎的研究 在宅医療の促進に向けた、末期医療の実態および意識調査とそれに基づく要件・手続きの検討」(前田正一／上白木悦子)	1	-	○	○	3	-	-
286	「筋委縮性側索硬化症(ALS)療養者の『自己決定要因』に関する調査研究」(川口有美子)	1	-			1,2	2	2
287	「公的診療所機能が中断された離島住民の健康危機への看護介入研究 - 情報収集から説明モデルの作成まで -」(近藤松子)	1	-			1	1	1
296	「『在宅療養支援病院』が地域において果たす役割」(武田誠一)	1	-	○		4	-	-
298	「終末期の療養場所の意思決定における悪性グリオーマ患者・家族への看護に関する質的研究」(津村明美)	1	-		○	3	-	-
305	「過疎地における在宅重度高齢障害者の車椅子 Seating System 導入前後の意識調査 ~ 介護員、介護支援専門員への車椅子に対する啓蒙、意識改革にむけてのアプローチ ~」(森直樹)	6	○	○		1	1	3

研究デザイン 1:実態調査, 2:開発・作成, 3:普及・啓発, 4:教育, 5:事業・モデル事業, 6:その他

対象者 1:患者・被介護者・住民, 2:家族・介護者, 3:専門職, 4:組織, 5:システム, 6:その他, 7:限定なし

対象者年代 1:高齢者, 2:成人, 3:小児, 4:限定なし

疾患 1:健常, 2:難病, 3:障害, 4:ガン, 5:認知症, 6:精神, 7:感染症, 8:その他, 9:限定なし